



Japan  
Food  
Research  
Laboratories

## 試験報告書

第 100072826-001 号

依頼者 サーフセラ株式会社

検体 サーフセラ

試験項目 農薬除去効果試験

平成 12 年 07 月 13 日 当センターに提出された  
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

平成 12 年 08 月 25 日

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区代々木町52番1号  
大阪支所 〒564-0051 大阪府豊中市豊津町3番1号  
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号  
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号  
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号

## 農薬除去効果試験

### 1 依頼者

サーフセラ株式会社

### 2 検体

サーフセラ

なお、試験に用いた玄米は依頼者から提供されたものを使用した。

一方、ミニトマトは財団法人 日本食品分析センターが市販品を購入して使用した。

### 3 試験目的

検体を入れた水道水に玄米又はミニトマトを浸し、農薬の濃度を測定して、検体の農薬除去効果を調べる。

### 4 試験概要

#### 1) フサライド

カスガマイシン・フサライド水和剤(有効成分：カスガマイシン-塩酸塩1.37%，フサライド15.0%)をフサライド濃度が100 mg/lになるように精製水で希釈し、展着剤(成分表示値：ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル20.0%，リグニンスルホン酸カルシウム12.0%)を添加した。この液に玄米を1分間浸漬した後、一晩風乾し、フサライド付着玄米を調製した。

このフサライド付着玄米をざるに入れ、①水道水2 lに検体1 gを添加しかくはんしたもの(検体濃度0.05 W/V%)、②水道水2 lに検体3 gを添加しかくはんしたもの(検体濃度0.15 W/V%)及び③水道水2 l(対照区)に約30 gずつ浸漬し、5及び10分間放置した。放置後、玄米を取り出し、風乾後、ガスクロマトグラフ法によりフサライドの濃度を測定した。また、浸漬処理を行わなかったフサライド付着玄米についても同様に濃度を測定した。

表-1 フサライド(玄米)の試験結果(ppm)

処理条件	検体濃度 0.05 W/V%	検体濃度 0.15 W/V%	水道水(対照区)
処理前	4.9		
5分間浸漬	2.8	1.8	3.4
10分間浸漬	2.2	1.6	3.5

表-2 フェニトロチオン(ミニトマト)の試験結果(ppm)

処理条件	検体濃度 0.05 W/V%	検体濃度 0.15 W/V%	水道水(対照区)
処理前	16		
5分間浸漬	14	14	14
10分間浸漬	13	14	15

表-3 クロロタロニル(ミニトマト)の試験結果(ppm)

処理条件	検体濃度 0.05 W/V%	検体濃度 0.15 W/V%	水道水(対照区)
処理前	2.0		
5分間浸漬	1.3	1.1	1.5
10分間浸漬	1.1	1.2	1.7

以 上